

# 僕の住民監査請求

中 相作

「ばんばかばーん。ぽぽぽ。ばんばかばーん」

「なんですねいきなり大きな声で」

「今週のハイライトおツ」

「ほんまにやかましい男やな君は」

「さきごろ逝去なさいました横山ノック

師匠を心から追悼いたしました」

「そうゆうたら五月三日でしたか。残念

なことにお亡くなりになりました」

「五月の十五日にははな寛太師匠まで」

「まだ六十一歳という若さでね」

「相方のいま寛大師匠が『ちよつと待つ

てね』ゆうても寛太師匠はよう待たんと

逝つてしまいはったわけなんです」

「いくら漫才でもそんな不謹慎なことゆ

うとつたらあかんがな」

「それで本日の漫才はノック師匠をしの

ぶ意味で往年の漫画トリオふうに行つて

みたいと思います」

「漫画トリオゆうたかて若い人はご存じ  
ないでしょうけど」

「パターンとしてはごく単純なんです」

「かなりテンポの速い漫才でしたね」

「僕がばんばかばーんゆうたあと君が今

週のハイライトゆうたらええんです」

「そのあと時事的な問題をとりあげたニ

ユース漫才になるのがパターンです」

「しかし僕らの漫才もひさしぶりです」

「ずいぶんブランクがありました」

「二年三か月ぶりですからね」

「そないなりますか」

「最後の漫才は二〇〇五年三月でした」

「題材はどんなことでしたかいな」

「ばんばかばーん。ぽぽぽ。ばんばかば

ーん」

「今週のハイライト」

「名張まちなか再生プランの素案がまと

められました」

「いったいどんなプランですか」

「あの死に絶えたような名張旧町地区を

再生させるのがプランの目的です」

「どないして再生させますねん」

「プランの目玉は新町の細川邸を改修し

て歴史資料館をつくることです」

「結構なことですがな」

「しかし問題がひとつありまして」

「問題といえますと」

「歴史資料館をつくつても展示する歴史

資料がどこにもないんです」

「そんなあほな」

「みたいな感じで時事ネタにオチをつけ

ていくのが漫画トリオの漫才でした」

「それで君はその素案に対して漫才形式

のパブリックコメントを提出したわけ

すけどあれ結局どうなったんですか」

「さっぱりわやですわ」

「どうゆうことですねん」

「ばんばかばーん。ぽぽぽ。ばんばかばーん」

「今週のハイライト」

「名張まちなか再生プランは素案のとおり正式に決定されました」

「それやったらパブリックコメントを出した意味がありませんがな」

「僕が指摘した問題は完全に無視されてしまっていますね」

「なんでですねん」

「名張市に僕のゆうことを理解できる職員が存在してなかったからでしょうね」

「そんなことないでしょうけど」

「僕の指摘はプランの不備をついたとても重要なものやっただんですけど」

「たしかにあのプランには見すごしにできない問題があるみたいでしたから」

「なんせ展示品もないのに細川邸を改修して歴史資料館つくれゆうんですから」

「話としてはかなり無理があります」

「致命的な不備ですね。当時流行していたリフォーム詐欺みたいな話でした」

「詐欺ゆうてしもたらあきませんけど」

「しかも問題はもうひとつありまして」

「なんでしたかいな」

「榊田医院第二病棟」

「そうそうそうでした。江戸川乱歩の生誕地碑が建つてるところですね」

「名張市がその土地建物を所有者の方からご寄贈いただきまして」

「乱歩のことで活用してくださいと」

「ところがプランではそのことがいっさいふれられていませんでした」

「あれはけつたいな話でしたね」

「寄贈があつたのは二〇〇四年十一月のことやっただんですけど」

「プランを策定してる最中でした」

「にもかかわらず榊田医院第二病棟のことがプランにはまったく出てこない」

「なんでそうゆうことになりますねん」

「プランを策定した連中があほばっかりやっただんですけど」

「君すぐに人のことあほゆうけどね」

「歴史資料もないのに歴史資料館つくれゆうような人間はあほに決まっています」

「いきなり決めつけたらあかんがな」

「そのうえ榊田医院第二病棟がむこうから飛び込んできてくれたゆうのだから」

「プランの目玉になる素材でしょうね」

「それをプランに活かせへんゆうのやつたらそんなもんあほに決まっとるわい」

「決まっとるかどうかは別にしてそのプランいったい誰がつくったんですか」

「名張地区既成市街地再生計画策定委員会のみなさんです」

「どんな委員会ですんねん」

「そこらの関係機関団体からメンバー適当に寄せ集めてきただけの委員会です」

「関係機関団体といいますと」

「名張地区まちづくり推進協議会。名張青年会議所。名張市老人クラブ連合会。名張文化協会。川の会・名張。名張商工会議所。名張市社会福祉協議会。国土交通省近畿地方整備局木津川上流河川事務所。三重県伊賀県民局。名張市PTA連合会。名張市区長会」

「なんやもうオンパレードですな」

「ここに三重大学の先生と名張市議会議員の先生に加わっていただきました」

「なんとも豪華な顔ぶれですけど」

「しかも委員会はまだ出てくるんです」

「といたしますと」

「ばんばかばーん。ぽぽぽ。ばんばかばーん」

「今週のハイライト」

「二〇〇五年六月に名張まちなか再生委員会が発足いたしました」

「今度は何をする委員会ですもん」

「名張まちなか再生プランを具体化するための委員会です」

「プランをつくった策定委員会はどうしたんですか」

「あつさり絶滅してしまいました」

「君そんな恐竜やないんですから」

「けど絶滅と表現するしかないんです」

「どうゆうことですねん」

「ばんばかばーん。ぽぽぽ。ばんばかばーん」

「今週のハイライト」

「名張まちなか再生委員会が歴史資料館構想を白紙に戻してしまいました」

「いったい何をやってますもん」

「委員会の議事録によりますと二〇〇五年の七月に『細川邸は歴史資料館ではなく(仮称)初瀬街道からくり館』を基

本テーマとする』と決定されました」

「それやったら名張まちなか再生委員会の結成直後のことですがな」

「僕の指摘した致命的な不備がいきなり表面化してきたわけです」

「歴史資料館はやっぱ無理でしたか」

「しかしこれはおかしなことなんです」

「おかしなことといいますと」

「プランをええように変更する権限がまちなか再生委員会にあるのかどうか」

「なるほど」

「名張まちなか再生プランは市議会のチェックとか市民のパブリックコメントとかさうゆうハードルをいちおうクリアして決定されてるわけなんです」

「あくまでも細川邸を歴史資料館にするというプランにOKが出たわけですね」

「ところが細川邸を『初瀬街道からくり館』にいたしますという話はそうしたハードルを全然クリアしてませんかね」

「ちよつとまづいかもありません」

「ほかにもまづいことがあるんです」

「どこにありますもん」

「柘田医院第二病棟」

「あそこがなんぞしたんですか」

「あそこは何もしませんけど名張まちなか再生委員会がまた勝手な真似をね」

「何をしました」

「名張まちなか再生プランにはひとつも記されていない柘田医院第二病棟の整備について協議を始めたんです」

「いつのことですもん」

「委員会の議事録によりますと二〇〇五年の七月に『柘田医院別館第二病棟の利活用にあたっては江戸川乱歩をテーマとする必要がある』みたいなことがしゃあ

「しゃあと検討されてましてね」

「それこそ詐欺みたいな話ですがな」

「僕がパブリックコメントで柘田医院第二病棟のことをプランに盛り込めと指摘したのを無視したあげくこのざまです」

「たしかに指摘しましたからね」

「指摘したのに無視する。無視したのに協議検討の対象にする。こんなもんインチキとしかいいようがありません」

「なんでこんなことになったんですか」

「名張市に僕のゆうことを理解できる職員が存在してなかったからでしょうね」

「いやそれはもうええねん」